

「みたまのふゆ」とは、私共が常に蒙りいただいております大神様の恩徳、加護、御神威を尊称した言葉です。人間は自分ひとりの力で生きてゐるのではなく、つねに「みたまのふゆ」をいただいて、生かされてゐるのです。

### 令和の御代を迎へて

五月一日には宮中で「劍璽等承継の儀」「即位後朝見の儀」がとりおこなはれ、元号も「令和」と改元されました。

皇太子殿下が第百二十六代の天皇陛下として御位にお即きになりました。三種神器を受け継がれて、先帝から間を置かず御位に就くことを、古来「踐祚」と申しました。今日の法制度では「踐祚」の用語を使用せず、「即位」の用語で統一されてゐますが、「踐祚」の後に、時間を掛けて準備をし、内外に即位を宣明し、また祝賀する行事が「即位の礼」になります。今回は十月二十二日がその日と定められました。その後、即位後の最初の「新嘗祭」を「大嘗祭」と称し、その年の新穀をもって齋行されますが、これも一連の即位の大礼であります。「大嘗祭」は十一月十四日（から十五日の未明にかけて）です。

秋の稔りの新穀をもって皇祖神をまつるために、即位の「大礼」は古来、秋に行はれるものなのです。国民の安寧と平和が五穀の豊穰のもとに祈られます。「祈り」とともに陛下はその御位に坐しませてもらえます。

ここに我が国が「まつりの国」であるといふ伝統的な形が体现されてをります。

(上の図は大正天皇の即位礼紫宸殿の儀)

#### 令和元年祭事曆

- ◎ 一月 一日 歳旦祭
- ◎ 三月 二日 春季大祭  
祈年祭・合祀神例祭
- ◎ 五月 五日 例大祭  
神社本廳献幣使参向  
琵琶島弁天社（神輿渡御）
- ◎ 四月 二九日 昭和祭
- ◎ 六月 三〇日 大祓式  
大祓人形納め・茅の輪神事
- ◎ 七月 七日 天王祭出御祭  
本社神輿御霊入・宮出渡御
- ◎ 七月 九日 三つ目神楽  
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 七月 一四日 天王祭巡幸祭  
天王神輿町内巡幸
- ◎ 七月 二一日 手子神社例祭
- ◎ 九月 一日 浅間神社例祭
- ◎ 九月 一七日 熊野神社例祭  
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一〇月 一三日 手子神社秋祭  
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一二月 二三日 秋季大祭  
新嘗祭
- ◎ 二月 八日 歳の市  
開運熊手授与
- ◎ 二月 三一日 大祓式  
大祓人形納め・古札焼納式
- ◎ 毎月 一日 月次祭  
（五月踐祚改元奉告祭、十月御即位奉祝祭、十一月大嘗祭奉祝祭）



**令和御大礼記念事業**  
**瀬戸神社社務所建築計画について**

**本年天王祭後に着工を予定**

これまでの瀬戸神社の社務所は、昭和十五年に「紀元二千六百年記念事業」として建設されました。

戦後の昭和二十年から三十年代には、この社務所で結婚式を挙げられた方も多くをられました。当時は結婚式の出席者も身内の二三十人といふことで、この社務所も機能してをりました。昭和四十年代ころから、結婚披露宴も会館やホテルで百人規模で行はれるやうになり、社務所の利用も少なくなりました。

建築後八十年近くなり、老朽化も進んできました。耐震補強等と改装で済ますことも考へましました。社務所の利用形態にも時代とともにいろいろ多様に変化してきておます。

さうした時代の要請にも適合できる、新しい社務所の建設につき、総代世話人の皆様と検討を続けてきましたが、大筋の方

針が固まってまゐりましたので、新たな設計で新築することとして建設に着手することといたしました。

時はあたかも「令和」といふ新時代を迎へます。また、金沢八景駅周辺もシーサイドラインと京急線接続事業、駅前区画整理事業も完成し、神社を取り巻く景観にも現代化の波が押し寄せてをります。

この状況にも対応し、「平成御大礼記念事業」として、第百二十六代の天皇御即位を氏子・崇敬者一同で奉祝する意義もこめて、氏子・崇敬者の皆様にとつても、参拝者の方々にとつても、有意義に活用でき、便利に利用できる施設として役立つものとしてゆきたいと存じます。

つきましては、氏子・崇敬者はじめ多くの皆様にも、御協力、御協賛もお願い致したく存じます。

以下、新社務所の概要につきご説明申し上げますが、何卒、その趣旨をご賢察いただき、是非とも御浄財の御奉納も仰ぎたく、伏して御懇願申し上げます次第です。よろしくご理解の程、

お願い申し上げます。

**新社務所概要**

規模 木造二階建て

(一階 二四七・四平米)

(二階 一九五平米)

(計 四四二・四平米)

屋根 ガルバニウム鋼板

**特色**

**(外観)**

神社社務所にふさはしい和風の外観に留意しました。一階授与所周りに回廊風に下屋を設け、将来は社殿に回廊をつなげる配慮をしておます。

**(二階)**

\***玄関** 旧社務所玄関の唐破風を復元使用し、これまでの景観の継続をはかります。

玄関は南向きになり、玄関前も祭典の際などに集合整列できるスペースを確保します。

\***祈祷待合室** 玄関内に待合室を設けます。雨天や寒暑の折にも快適にお過ごしできる配慮をしました。

祈祷受付は玄関内のできるやうになります。

初宮のご祈祷などのために、授乳室(更衣室)の準備もし

ます。トイレも男女別に設置  
します。

**\* 授与所** Ⅱスペースを広くとり、  
下屋屋根をつけ、雨天でも対  
応しやすくします。

**\* 展示室** Ⅱ神社の由緒や地域の  
歴史に関する物品などを展示  
し、皆様のご理解を深めてい  
ただける施設を目指します。

**(二階)**

**\* 集会室** Ⅱ七〇平米超のスペー  
スを確保します。これまでの  
社務所は約四十人で会食する  
のが限度でしたが、収容人員  
をほぼ倍増できます。総代関  
係者の集会だけでなく、氏子  
一般の方々の各種会合にもご  
利用いただけることを考慮し  
ました。食事(ケータリング)  
をとみなふ集会にも考慮し、  
台所も広めにしました。

各種の研修、講演会などに  
もご利用いただけるやう、マ  
イクやスクリーンも整備する  
予定です。

また、集会室は靴のままご  
利用できる仕様とします。

**\* 和室** Ⅱ八畳・六畳の二間を設  
けました。例祭等の祭員の着  
装に使用しますが、祭事的な

い場合は、茶道、着付け、そ  
の他の和風のお稽古事に提供  
もできます。

**予算見込み**

**支出額**

建築費	一億三五〇〇万円
設計監理	一〇〇〇万円
什器備品	二〇〇万円
祭典費	五〇万円
付帯工事等	二〇〇万円
事務費等	五〇万円
以上計	一億五〇〇〇万円

**収入額**

積立準備金	六〇〇〇万円
神社支出額	四〇〇〇万円
奉賛目標額	五〇〇〇万円
以上計	一億五〇〇〇万円

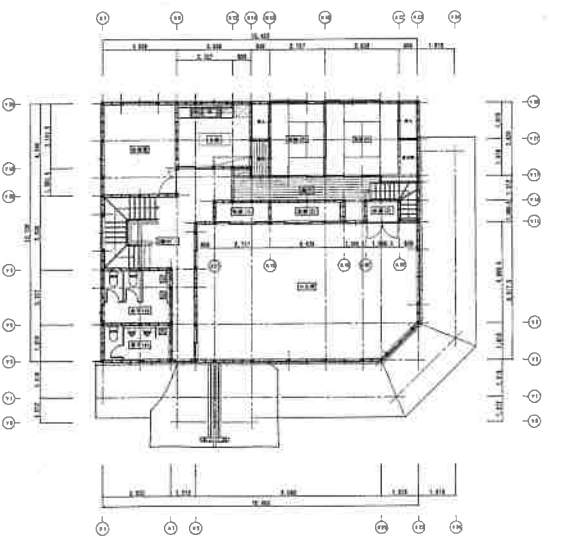
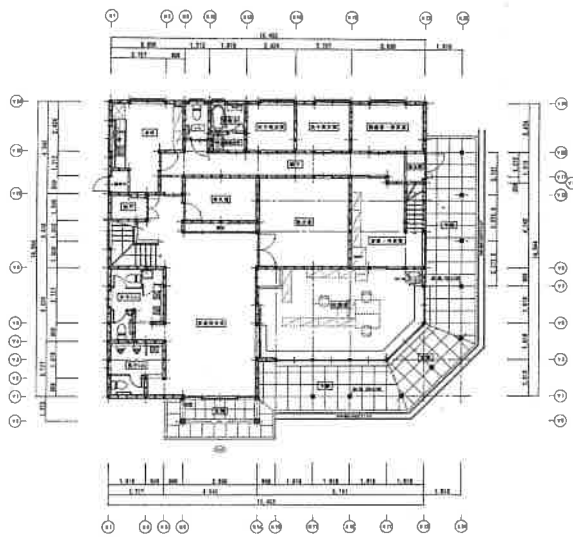
**御奉賛のお願い**

三月までに建設会社数社より  
見積をとり、精査の上、発注契  
約すべき会社を選定したところ  
です。  
予算的には、氏子崇敬者の皆  
様の御協賛が必要な事業とな  
ります。

広く氏子・崇敬者・その他地  
域の皆様にご利用いただける施  
設となります。「金沢八景」とし  
て歴史と伝統のある、この地域  
の文化を守り、将来の発展にも  
つなげる用途を皆様にも活か  
していただきたく存じます。

今回の社務所建設の、この意  
義を是非ともご理解いただき、  
多くの皆様のご援助、ご賛同を  
どうかよろしくお願いいたしま  
す。

宮司 記



### 瀬戸神社略縁起

大昔、今の泥亀町、大川町、釜利谷町小泉のあたりまで海が入りこみ、柳町や六浦町の塩場、南六浦、内川町内もすべて海でした。そして洲崎と瀬戸の間は、潮の干満時には急流が渦を巻き、容易に渡れぬ難所でした。古代人がここに海神を祀ったのが瀬戸神社の起原で、今から千五百年以上も前(古墳時代)のことです。

治承四年(一一八〇)鎌倉に入った源頼朝が、日頃崇敬する伊豆三島明神をこの霊域に遷祀してからは、六浦港の守り神「瀬戸三島大明神」として鎌倉幕府をはじめ上下の尊信をあつめ、その後、足利氏、小田原北条氏の崇敬も篤く、江戸時代には名勝金沢八景の中心にあつて、百石の社領を有する大社として、江戸の町民の間まで信仰者がひろがりました。

明治六年郷社に列格、戦後は宗教法人となり神奈川県神社廳勅幣使参向神社に指定。現在の社殿は寛政十二年の建造で、昭和四年の屋根を銅葺きに改め、平成二十四年には御屋根替へと修増築の御修葺事業が行われました。

### 御祭神

#### 大山祇(おほやまつみ)の命

伊豆国三島大社、伊予国大三島の大山祇神社の御祭神と同じ海上交通の神であると同時に、水源地を司る山の神であり、金属、岩石、木材などの建築資材や、森林、鳥獣に至るまで、一切の生活資源は、この大神の恩徳によるものです。

天孫瓊瓊杵尊の御后となられた木花咲耶姫の御父神にあられます。  
**須佐之男(すさのを)の命**

配祀の神の須佐之男命は、天照大神の御弟神で、八俣の大蛇を退治された神話は有名です。自然界、人間界の罪けがれや悪者を追ひ祓ひ、人々の苦しみを除いてお守りくださる神様で、別名を「天王さま」と仰がれてゐます。七月の天王祭りには大神輿で氏子町内をくまなく御巡りになります。

#### 菅原朝臣道真公

天満大自在天神とも尊称し、一般には「天神さま」と親しまれて呼ばれます。書道、学問、詩文、和歌に秀でてをられただけでなく、至誠、尽忠、孝道、正義、国家鎮護の神さまでもいらつしやいます。

### 釜利谷町鎮座

#### 手子神社

釜利谷町総鎮守の手子神社は、もとの地の領主伊丹左京亮が、文明五年(一四七三)瀬戸神社の御分霊を宮ヶ谷の地におまつりしたものです。

延宝七年(一六八〇)、伊丹氏の子孫、三河守昌家の子で、江戸浅草寺の智樂院忠連僧正が、現在地に遷祀して以来、釜利谷一郷の総鎮守として信仰を集めました。明治六年村社に列格、大正十二年の大震災で倒壊しましたが、同十五年再建し、昭和四十五年には御屋根も総銅板葺きに改修し、一段と御神威を加へました。

御祭神は瀬戸神社と同じく大山祇命、例祭日は七月十七日(現在はその後の日曜日)ですが、十月十五日(前後の日曜日)の秋祭りには、古式豊かな湯立神楽が昔ながらの伝統を守つて行はれます。

境内の洞窟にお祀する竹生島弁才天は、金沢八景のひとつ「小泉の夜雨」の中心地にあつたもので、厄除け、開運の福神として信仰されてゐます。

### 朝比奈町鎮座

#### 熊野神社

社伝によれば、鎌倉に幕府を開いた源頼朝が、その東北の守りとして熊野三社をここに勧請したものとひます。(仁治二年(一二四一)、鎌倉幕府は朝比奈奈切通しの開墾に全力を挙げ、執権北條泰時は自ら現場に臨んで工事を指揮しました。社殿の建立もこの頃行はれたこととせう。

その後、元禄八年(一六九五)、地頭加藤太郎左衛門尉良勝が相殿を再建してから、里人の崇敬を集め、相模国鎌倉郡峠村の鎮守として崇敬されてきました。安永及び嘉永年間には再度の修築も行はれて、明治六年村社に列しました。

昭和五十三年、氏子一同の熱意を結集して、入母屋造、総檜、銅板葺きの本殿を完成、更に平成御大典記念事業として新たな拜殿を建築竣功して今日に至つてゐます。御祭神は速玉男命、伊邪那岐命、伊邪那美命の三柱です。

例祭日は九月十七日で、昔ながらの古式にのつとつた湯立神楽が今も続けられてゐます。

### 谷津町鎮座

#### 浅間神社

谷津の町の鎮守として古来崇敬されてきました。伝説では御堂関白太政大臣藤原道長が当地に來遊、能見堂から金沢の景勝を鑑賞したときに、正面の目下にあるこんもりとした山を塗桶山と名付け、そこに浅間大神を勧請したといはれます。道長の來訪は史実ではありませんので、創建の詳細な時期は不明ですが、富士山信仰が関東一円に広まった中で当地にも勧請されたものでせう。ご祭神は富士山の浅間神社と同じ木花之佐久夜毘賣命です。特に安産の御利益があり婦人の崇敬が篤かつたと伝へます。

御祭神が天孫瓊瓊杵尊の御后となり、御子神等を出産されたことによるものでせう。祭日は六月一日の開山祭と九月一日の例祭。例祭(近くの土曜日)には谷津・東谷津・泥亀の各町内で神輿の巡幸その他の賑やかな行事が営まれます。寛政四年(一四六三)西山松眠といふ医師が神饌田を奉納以來、例祭には赤飯をお供へし、お下がり

は崇敬者婦人が分けたといふことです。

### 瀬戸神社

〒三三六〇二七  
横浜市金沢区瀬戸十八ー一四

(電話) 〇四五七〇一九九九二  
(FAX) 〇四五七〇一九九九四

<http://www.setojinja.or.jp>